



セカンドハーベスト名古屋

SECOND HARVEST NAGOYA PRESS

2019.6.30

NO.12

発行元 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋

〒462-0831 愛知県名古屋市中区城東町七丁目148番地

TEL:052-913-6280 FAX:052-913-6281

E-mail:info@2h-nagoya.org URL:https://www.2h-nagoya.org/

編集／印刷 橋本写植

「食べ物をつなぐ」新たな取り組み 社会的養護の施設との連携

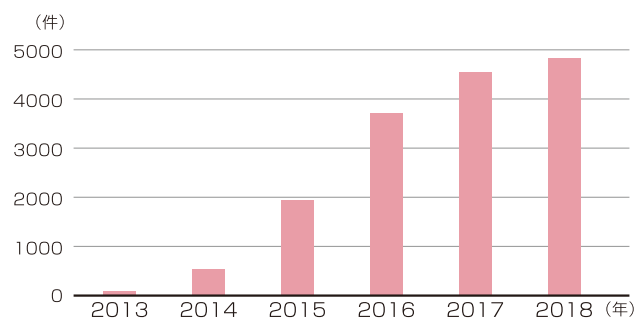


セカンドハーベスト名古屋（以下、2HN）では、必要とする人へ食品パック（お米5kgと缶詰や調味料7～8kg、単身世帯の場合2～3週分の食料に相当）を行政が設置した相談窓口と連携して届けています。行政には生活保護や各種福祉制度を申請する窓口があるため生活に困っている人の情報を掴んでおり、この連携により私達だけでは繋がれなかった人へ食品を届けられています。

食品を受け取った人は、体力の回復や食費の削減、精神的な安定が得られ自立に向けて前向きになります。相談員は窓口に来られた人との信頼関係が構築でき、自立に向けた支援がしやすくなります。これらの成果から東海3県のほぼすべての自治体が設置した相談窓口と連携するまでに広

がり、年間約5,000箱もの食品の詰合せを延べ10,000人に届けるネットワークが名古屋市のみならず愛知・岐阜・三重県でも構築されています。

食品パック発送件数の推移



CONTENTS

新たな取り組み：社会的養護の施設との連携……p.1～3
ボランティアインタビュー……p.4

見えてきた課題

生活に困っていることの定義は様々ありますが、日本ではその人が暮らしている社会の普通の生活水準と比較して下回っている「相対的貧困」が用いられます。この状態に陥ると、まわりの人が当たり前に得ている教育や体験、人とのつながりが乏しくなり、地域社会から孤立し、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にあります。

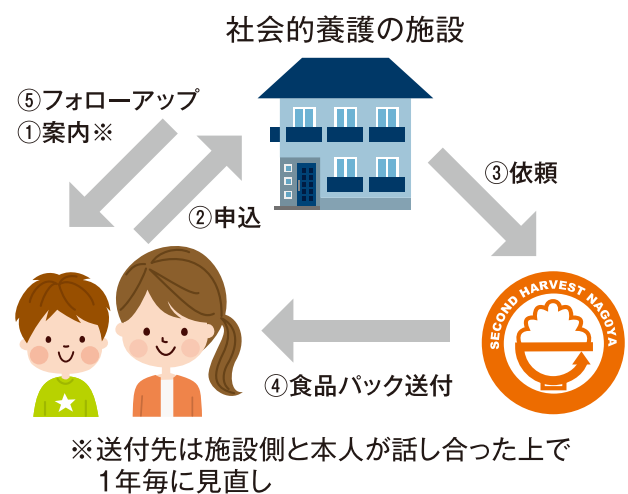
これまで私たちは困っている人へ食品を届けたいと考え、ホームレス支援団体や障害者支援団体など様々な福祉施設・団体へ広く食品を提供してきました。さらに前述の行政との連携により、自治体が設置した相談窓口を訪れた個人へも食品を届けられるようになりました。しかし、近年メディアで子どもの貧困やシングルマザーの問題が多く報道されているものの、フードバンクとして食べ物を必要とする母子家庭や子ども達へ十分に届けできていませんでした。

社会的養護の施設との連携

そんな中、これまで食品を提供していた母子生活支援施設や児童養護施設、自立援助ホーム等の社会的養護の施設スタッフから「私達の施設を退所した人が、食べ物を必要としているので支援してもらえないか」と相談を受けました。詳しく聞くと、施設にいる間は様々な支援が受けられるものの、一旦退所すると生活に困ってしまう場合があるそうです。まわりに頼る人が少ない中、少ない貯金や奨学金で生活し、家賃や水道光熱費、スマホ代を支払うと手持ちが少なくなり食費を削って体調が悪化。そのため、スタッフが自腹で食品を買って持って行くそうです。

そこで私たちは社会的養護の施設と連携して、退所した母子家庭や子ども達へ毎月食品バックを届ける活動を数年前から行ってきました。

た。まず、施設を通じて退所した母子家庭や子どもへ案内ならびに申し込みをしてもらいます。施設から個人情報を受け取った2HNは、毎月1回食品バックを宅配で届けます。施設側は食品の受領確認の電話をしたり、子どもの一人暮らしの場合には直接届けに行くこともあります。施設スタッフからは「毎月話をする口実ができるので、これまで途切れがちだった繋がりが維持できます」「食品を持って行くことで色々な話ができ、困ったことを気軽に相談してくれるようになりました」と仰っています。



名古屋から東海3県へ拡大

この取組により、母子家庭や子ども達に対して食生活の改善や食費の削減、精神的な安定等が図れ、さらに社会的養護の施設スタッフとの困った時に頼れる関係性が維持できます。現場のスタッフからはもっと広げて欲しいとの声は多数いただいていた。しかし、施設との連携が一部に留まっていたことや新しい取組を始める資金が十分でないことから、これまでは月に20世帯へ届ける程度でした。

今年度に入り名古屋市内の施設との連携に目途が立ち、さらに事業費の一部に助成金を活用できるようになったため、今年度本格的に開始することとしました。現在は名古屋市内に留まっていますが、3年後には愛知県のみならず東海3県までに広げ毎月100世帯へ届けたいと考えています。

特別インタビュー

林さん(大学3年生)

今回、児童養護施設を退所し、2HNの食品を利用されている大学生の林さんにお話をお伺いし、食品をどのように活用されているか教えてくださいました。



■現在はどうような生活を送っていますか？

現在、大学でスポーツ科学を専攻しています。部活は小学校から続けている陸上部に所属していて、やり投げの選手です。

高校を卒業して児童養護施設を退所し、学校近くのアパートで一人暮らしをしていて、自炊はよくしています。みそ汁は得意で、必ずだしを取って作っています。陸上をやっているため、食事にはとても気を使っています。食べてよい総カロリーとたんぱく質・脂質・炭水化物の栄養素量を計算して、コントロールするようにしています。多すぎても少なすぎてもよくないので、毎日記録しています。外食は控えて、お昼ご飯も作って学校に持っていくことが多いですね。

■料理がとても上手なんですね。最初から料理は得意だったんですか？

施設にいた時は、高校が遠く部活もしていたので帰りが21時ごろになっていたため、家事をす

る時間が全くありませんでした。一人暮らしになって初めて料理をするようになりました。最初は家事全般苦労したので、ありがたみをとても感じましたね。大学入学後、変化があまりにも大きく生活に慣れるまで、半年くらいは施設に帰りたいと思っていました。今住んでいるところは、田んぼが多く「こんな田舎いやだ」という気持ちもありました。(笑)

■昨年から月に1回、食品をお届けしていますが、もらって嬉しかったものなどありますか？

お米はとても助かります。自分で買うには高いし、かなりの量を消費するので。調味料などもありがたいですね。週に数回、飲食店でのアルバイトをしています。食費や部活の遠征費などがかかるため金銭面では苦労しています。ですので、月1回食品をいただけるのは、とてもありがたいです。学費は給付型の奨学金をもらっていますが、思った通りにやりくりがいかないことも正直ありますね。施設職員の方がお金の管理を一部してくれていますが、お金の使い方で喧嘩になることもあります。(笑)

■最後に、今後の目標など教えてください！

元々は保健体育の教員を目指していましたが、現在は他の選択肢を考えています。大学での勉強を活かしてトレーナーや海外でのスポーツ指導、自分で何か立ち上げてみようかなと思っています。今はまだ迷っているところで、インターンなども経験しながら進路を考えていきたいと思っています。

寄付のお願い

今回ご紹介した社会的養護の施設を退所した方々への支援事業は、フードバンク活動と同様に個人・法人のみなさまからの寄付や助成金を活用し行っています。1万円のご寄付で母子家庭や子ども4世帯へ食品の詰合せ(単身世帯の場合2〜3週間分の食品)を届けられます。みなさまのご支援何卒宜しくお願い致します。

銀行振込

三菱 UFJ 銀行 栄町支店 普通口座 0015287
 特定非営利活動法人 セカンドハーベスト名古屋
 ※領収書が必要な方は、info@2h-nagoya.org までご連絡ください。

クレジット カード

単発での寄付だけではなく、毎月の継続寄付メニューもご用意しております。
 ■ 1,000円/月 ■ 3,000円/月 ■ 5,000円/月 ■ 10,000円/月

セカンドハーベスト名古屋 寄付



ボランティア インタビュー



私たちの活動は20～80代のボランティア約50名によって支えられています。今回は67歳で退職を機にボランティアとして参加するようになった佐野さんへインタビューしました。

Q:活動に参加したきっかけを教えてください

3年半程前、仕事を辞めて名古屋に戻って来る際に、何かボランティアをしようと考えていました。元々私は製薬や薬品の開発業務をサポートする会社で、品質マネジメントやコンプライアンスに関連



する業務を行っており、この仕事を通じて自分が社会に参加している感覚をもっていました。だからこそ仕事を辞めた後でも、この感覚を持ち続けたいと考えていました。

例えば、私が考える社会参加は、自分のやったことが他人のメリットになったりして必要とされることです。最も興味を持ったのは、人が生きていく上で必要不可欠な食べること。この食を通じて生活に困っている人を支えたい。ただ、こうした活動を自分ひとりだけで行うのは難しいだろうと考えていたので、フードバンク活動自体は10年以上前から気になっていました。そうした思いもあり、名古屋に戻ったらすぐに活動へ参加しました。

Q:普段どんな活動をしていますか？

2HNの車を運転して、食品を寄付くださる会社の工場や倉庫へパンや冷蔵冷凍食品を引き取りに行っています。また、パートナー団体（2HNが食品を提供する福祉団体）のひとつ、少年院を出た後の少年の更生保護施設へ毎月1回食品を届けに行っています。

Q:活動の魅力は何ですか？

例えば引取りに行った食品が多かったとき、とっても嬉しいです。こんなに沢山の食品を引き取れたということは、それだけ沢山の人達に食品を届けることができます。団体の名前の通り、まさに第2の収穫ですね。

また、食品を届けた際にスタッフの方から「ありがとう」と直接御礼を言っていたり、食品を受け取った子ども達の笑顔を見たとき等、毎回ではありませんがこうした瞬間にやりがいを感じます。

2HNには色々な経歴をもった人がボランティアとして活動しており、食品を引き取りに行く車の中で色々な話ができることも楽しいです。話をする中で感じるのは、やはりボランティアとして関わっている人達は、

「食べ物をもったいない」「困っている人を助けたい」とそれぞれ違いはありますが、皆さん想いがあってこの活動に関わっていることですね。



Q:最後に一言

最近嬉しかったのが、友人と話していてココ（2HN）でボランティアをしてると伝え、「フードバンク！知ってますよ。いい活動をしていますね！」と言ってもらえたことです。

行政だけに頼らずに、自分達でも困った人を支えられるこの活動のもつ意味は大きいと思います。認知度が高まれば、寄付者やボランティアももっと増えると思います。だからこそ、このフードバンク活動がもっと社会に広がってほしいと思います。

